

家族の在り方

南国市立岡豊小学校六年

石橋陽向

私にはお父さんが二人います。

一人は血のつながったお父さんですが、今

ははなれて暮らしています。

もう一人は、血はつながってないけど何年

もいっしよに暮らしているお父さんです。

私のお母さんは、私と妹が小さいときに離

婚しました。それから何年か経って、今いっ

しよに住んでいるお父さんとお母さんは再婚

しました。

そんななか、ある女性がお父さんとお母さ

んに、

「ステップファミリーは、ふつうじゃない。

子どもの成長に悪い。」

と言っていました。そのことを聞いてお父さ

んもお母さんもとても怒っていました。でも、

心の中では怒りよりも悲しさのほうが大きか

ったと思います。

私自身はそのことがあるまで、「ステップフ

「アミリー」という言葉を聞いたことがありませんでした。その女性が言った「ステップフアミリー」が何のことなのか、そして二人がなぜ怒っているのか、その時にはわかりませんでした。

「ステップフアミリー」について調べてみました。親の再婚によってできた家族のことをそう呼ぶことがわかりました。昔は「親をなくした子ども」という意味があったそうです。しかし今では「一歩進んだ関係」として使われることもあるそうです。

その一方で、ステップフアミリーに対して「子どもがかわいそう」「本当の親子じゃないから、ふつうの親子とは違う」と言ったイメージを持つ人がいることも知りました。

じゃあ、「ふつう」の家族や親子って何だろう。血が繋がっていることだけですか親子の証明ができないのかな、血が繋がっていないと「ふつうじゃない」のかな。このことはわたしの心にもやややするものを植え付け

ました。これは私がまわりから感じた初めての
の偏見だったと思います。

偏見とは、正しい知識がないまま一方的に
そうだと思いついて決めてしまうことから始
まります。

私は女性が言った「ふつうじゃない」とい
う言葉を改めて考えると、私の家族の中身や
内面のことを何も知らないのに悪いと決めつ
けているようで、とても嫌な気持ちになりま
した。そしてお父さんとお母さんが怒ってい
た理由を理解することができました。

私は、はなれて暮らしているお父さんとも
月に何回か会って一緒に出かけもしていま
す。一緒に暮らしているお父さんとも出かけ
たりゲームをしたりして遊んでいます。私に
とってはどちらも大事な「私のお父さん」で
す。

今まで私は、友だちや周りの人たちからス
テップファミリーだからと言ってからかわれ
ることはありませんでした。みんな自分たち

の家族と変わらないと感じてくれています。けれど今回、「ふつうじゃない」と決めつけることで、傷つく人がいるということを実感しました。家族の形は、「ファミリー」の数がある限り、無数にあると思います。すべての家族がすべて同じ構成、同じ考えを持っているとは限りません。色々な形があつて色々な構成があることが、それこそがふつうのことだと私は思います。ステップファミリーがあり、ひとり親家族があり、それぞれに色々な事情があると思います。だからこそ固いきずなが生まれると思います。

私は自分の家族が大好きです。私には一緒に住んでいるお父さんとお母さんとの間に生まれた妹が二人います。このような子どもたちを「セメントベイビー」、そして家族を「セメントファミリー」と言い、きずなが固まるという意味があるそうです。私は妹のお世話をするのも好きだし、妹たちもとても慕ってくれています。妹たちの存在のおかげで私た

ち家族は毎日、笑いの絶えない時間を過ごす
ことができている。

家族の形はひとつじゃないと思います。大
切なことは、家族のなかで思いやつたり、助
け合ったりする気持ちがあることだと思いま
す。

私は自分の家族を「ふつうじゃない」と言
った女性やそう思っている人たちに対して、
胸を張って「これが私の自慢の家族です！」
と自信を持って言えます。お父さんは、仕事
で疲れていても私たち家族が楽しめるように
色んな場所へ連れていってくれます。お母さ
んは、何があっても家族の味方になってくれ
て、家の中を楽しい雰囲気にしてくれます。
妹たちも、私と同じように血のつながりを気
にせず、一緒に遊んだりお手伝いをしたりと
仲良く過ごしています。

これからも、いろいろな家族の形が認めら
れ、もっと笑顔を増やせる社会になっていっ
てほしいです。そして、二人のお父さんと仲

良く過ごしていきたいし、家族のきずなをも
っと深めていきたいなと思います。